PRESS RELEASE

*当リリースは、2 月 19 日にフォルシアがフランスで発表した英文リリースの抄訳です

2023 年 3 月 20 日

2022 年度の成果：成長、レジリエンス、キャッシュ創出、レバレッジ解消

→ **成長：売上高は 255 億ユーロ、報告ベースで 63%増加、オーガニックベースで 17%増加**
→ **レジリエンス：2022 年度下半期の営業利益率は 5.0%、2022 年度通年では 4.4%**
→ **キャッシュ創出：4 億 7,100 万ユーロの堅調なネットキャッシュフロー**
→ **レバレッジ解消：調整後 EBITDA に対する純負債の比率は、6 月 30 日時点の 3.1 倍から年度末には 2.6 倍に**

優先課題：レバレッジ解消、統合、持続可能な成長

→ **レバレッジ解消：10 億ユーロの売却計画は、これまでに発表した予定されている取引によって達成**
→ **ヘラー（HELLA）の統合：2022 年度の共同受注高は 18 億ユーロと好調であり、コストシナジー効果を 3 億ユーロ超に上方修正、売上高シナジー効果を 4 億ユーロ超に上方修正**
→ **持続可能な収益性の成長：2022 年の受注高は 310 億ユーロと好調で平均利益率は 7%超、収益性の成長に関する中期目標の達成に向けて前進**

単位：百万ユーロ	2021 年度（フォルシア単独）	2022 年度（ヘラーの 11 カ月分の業績を含む）	前年比
世界の自動車生産台数*	*77,197*	*82,375*	*+6.7%*
売上高 一定の連結範囲と為替レート	**15,618**	**25,458**	**+63.0%** *+17.0%*
営業利益 売上高に占める割合	**862** *5.5%*	**1,115** *4.4%*	**+29.4%**
調整後 EBITDA 売上高に占める割合	**2,109** *13.5%*	**3,012** *11.8%*	**+42.8%**
ネットキャッシュフロー 売上高に占める割合	**305** *2.0%*	**471** *1.9%*	**+54.6%**

* 単位は 1,000 台、出所：2023 年 2 月付の S&P グローバルモビリティ（旧社名 IHS マークイット）のデータ

2023 年度ガイダンス

ガイダンスの前提条件

- 2023 年の世界の自動車生産台数は 2022 年実績からほぼ横ばいの 8,200 万台
- 平均為替レートは 1.10 米ドル／ユーロ、7.50 中国元／ユーロ

フォルヴィアの 2023 年度通年ガイダンス

- **売上高は 252 億～262 億ユーロ**（これまでに発表した売却取引による推定 13 億ユーロ分のマイナス影響を含む）
- **営業利益率は売上高の 5～6%**
- **ネットキャッシュフローは売上高の 1.5%超**
- **10 億ユーロ規模の 2023 年度末までの売却計画の影響を踏まえて、2023 年 12 月 31 日時点の調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 2.0～2.4 倍**

フォルシア最高経営責任者（CEO）、パトリック・コラーのコメント

「2022 年は、ヘラーの過半数株式の取得が完了したことで世界第 7 位の自動車技術メーカーとなる新グループ「フォルヴィア」が発足し、グループにとって歴史的な一年となりました。新グループの下でフォルシアとヘラーは互いの製品と強みを組み合わせ補い合っていきます。

コロナ危機からの復活の年になると期待されていた 2022 年でしたが、振り返ってみると半導体が慢性的に不足し、ウクライナ戦争の勃発でサプライチェーンの混乱が加速する展開となりました。インフレ率の高進、エネルギー価格の高騰、金利の上昇、ロシアからの撤退など新たな課題が持ち上がる一年となりました。

こうした不透明な環境にありながら、フォルヴィアの 2022 年の業績にはグループの新たな規模が反映されており、連結売上高は 250 億ユーロを超え、営業利益率は 2022 年下半期に売上高の 5%まで回復し、ネットキャッシュフローは 4 億 7,100 万ユーロと良好でした。

ヘラー買収のための資本部分に対するブリッジローンを含むブリッジローンはすべて借り換えを終えました。

10 億ユーロの非戦略資産売却計画については、これまでに発表した売却取引で目標を達成しています。

ヘラー統合がもたらした大きな進展によって、コストシナジー効果と売上高シナジー効果の目標値を引き上げることができました。

2023 年の生産台数は 2022 年と同様の水準になるという前提を踏まえ、2023 年の財務業績の改善をめざします。

フォルヴィア発足のために尽力し、2022 年には 310 億ユーロと堅調に受注を獲得して厳しい環境下で財務業績を回復させ、今後の成功および収益性の成長に向けて環境を整えてくれたフォルシアとヘラーの全チームに謝意を表します。」

- **2022 年度の連結財務諸表は、2023 年 2 月 17 日に開催された取締役会において、ミシェル・ド・ローゼンが議長を務める下、承認されました。**
- **これらの財務諸表は監査済みです。**
- **2021 年度の数値と 2022 年度の数値は完全に比較できるものではありません。**
  - **2021 年度の数値は 2022 年 2 月に報告されたフォルシア単独の数値です。**
  - **2022 年度の数値は、2022 年 2 月 1 日からヘラーが連結の範囲に含まれたことで（2022 年の 11 カ月分、グループ全体の売上高の 26%に相当）、大きな影響を受けています。**

2022 年に入って以降の主な成果

- **2022 年：フォルシアからフォルヴィアへ。フォルシアとヘラーの強みを組み合わせて世界第 7 位の自動車技術サプライヤー「フォルヴィア」グループが誕生。2025 年の売上高は約 300 億ユーロ**

2022 年 1 月 31 日、フォルシアは、ヘラーの過半数株式（82%）を取得しました。ヘラーは、2022 年 2 月 1 日からフォルシアの財務会計に連結されています。

新たな統合グループ、フォルヴィアのミッションは「**人々にとって大切なモビリティエクスペリエンスを実現する技術を先駆的に開発する**」ことです。

2022 年 11 月 3 日、フォルシアとヘラーは、パリでキャピタルマーケットデーを初めて共同開催しました。キャピタルマーケットデーでは、収益性の成長を促進し、キャッシュ創出力を高め、グループのレバレッジ解消を加速させるフォルヴィアの中期計画「**Power25**」を発表しました（詳しい情報は www.forvia.com をご覧ください）。

フォルヴィアの Power25 計画は 3 つの戦略的優先課題に焦点を当てています。

- **イノベーションとサステイナビリティを通じた売上増加の促進**
- **利益率の改善と損益分岐点の引き下げ**
- **資金回収効率の改善と積極的なポートフォリオ管理によるグループのレバレッジ解消の加速**

上記アンビションを以下の 2025 年財務目標に落とし込んでいます（2025 年の世界の自動車生産台数が 8,800 万台という前提に基づいたもので、10 億ユーロ規模の 2023 年度末までの売却計画による推定 10 億ユーロの影響を考慮しています）。

- **2025 年の売上高は約 300 億ユーロ**
- **2025 年の営業利益率は売上高の 7%超**
- **2025 年のネットキャッシュフローは売上高の 4%**
- **2025 年 12 月 31 日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 1.5 倍未満**

2023 年 1 月、フォルヴィアはラスベガスで開催された CES 2023 で、フォルシアとヘラーのテクノロジーポートフォリオを統合し、電動化、自動運転、コックピットのカスタマイズという自動車業界のメガトレンドに対応していくことを明らかにしました。グループが発表した世界初の Solid State Lighting High-Definition headlamp（SSL | HD） は、CES 2023 のイノベーションアワードを受賞しました。

2023 年度以降、フォルシアとヘラーの会計年度を暦年ベースに合わせます。

ヘラーの統合プロセスがもたらした大きな進展：2022 年度の共同受注高は 18 億ユーロと好調であり、2025 年の EBITDA ランレートに基づくコストシナジー効果を 2 億 5,000 万ユーロ超から 3 億ユーロ超に上方修正、2025 年の売上高シナジー効果を 3 億～4 億ユーロから 4 億ユーロ超に上方修正

ヘラーがグループの連結範囲に実質的に統合されて以降、フォルシアとヘラーはそれぞれの経営陣の指揮の下で連携を加速させ、シナジー効果に大きな進展をもたらしました。

コストシナジー効果に関しては、フォルシアとヘラーの両チームが認めたシナジー対策は 200 を超えています。これらの対策は 1,000 以上の細かい措置に分けられており、いずれも追跡管理を徹底しています。

その結果、2025 年の EBITDA ランレートに基づくコストシナジー効果と最適化による効果は、2 億 5,000 万ユーロ超から 3 億ユーロ超へと上方修正されました。

売上高シナジー効果に関しては、フォルシアとヘラーの連携を通じて 2022 年には 18 億ユーロと順調に受注を獲得しており、両社の製品の組み合わせや今後数年のうちにもたらされる機会、特に CES 2023 での成功を有効活用することで大きな将来性が見込めることが明らかになりました。2022 年の共同受注高は 18 億ユーロであり、すでに 2025 年の売上高シナジー効果の 3 億ユーロや 2026 年ランレートの 4 億ユーロを上回っています。

2025 年までの売上高シナジー効果は、3 億～4 億ユーロから 4 億ユーロ超に上方修正されました。

- **2022 年度の好調な受注高 310 億ユーロにより収益性の成長に関する中期目標の達成に向けて前進**

フォルヴィア（フォルシア＋ヘラー）の 2022 年の受注高は 310 億ユーロと好調で平均の営業利益率は 7%を超えており、すでに Power25 計画の目標利益率に到達しています。

2022 年の新規受注には、以下のような主要事業に重点を置いたフォルヴィアの戦略が反映されています。

- **エレクトロニクスの 84 億ユーロは**グループ全体の総受注高の 27%に相当し、エレクトロニクスの大きな将来性が表われています。
- **電気自動車（BEV と FCEV）の 133 億ユーロは**グループ全体の受注高の 43%に相当し、ゼロエミッション戦略が勢いを増していることが表われています。
- **中国の 62 億ユーロは**グループ全体の総受注高の 20%に相当し、採算性の高い中国市場が引き続き力強く成長していることが表われています。
- **高級車と SUV の 188 億ユーロは**グループ全体の総受注高の 61%に相当し、車両一台あたり搭載量（CPV）が極めて高いセグメントにおけるグループのポジショニングの強さが表われています。

- **ヘラー買収資金の借り換えの完了**

ヘラーの 82％の株式取得による総投資額は 54 億ユーロとなりました。

取得資金は、2021 年 8 月に締結した 55 億ユーロのブリッジ・ファシリティ契約を通じてすべて確保しました。このブリッジ・ファシリティは 2023 年 2 月中旬を期限とする資本部分に対するブリッジローンと、2023 年 8 月中旬を期限とするブリッジローンで構成されていました。

ウクライナ戦争が勃発しインフレ率の上昇が始まったことで市場環境は難しい局面にありましたが、**すべての借り換えを完了しました。**

買収総額 54 億ユーロの内訳：

- 5 億ユーロは、ヘラーの創業家（Hueck and Roepke Family、現在はフォルシアの株式資本の 9.22％を保有）に対するフォルシア株の第三者割当増資を通じて株式により支払いました。
- 7 億ユーロは、2022 年 6 月に新株予約権を発行し資金調達しました（引受価額 15.50 ユーロで 45,482,154 株の新株発行）。

残りの計 42 億ユーロは、社債の発行とキャッシュで支払いました。

このヘラー関連の計 42 億ユーロの資金調達に関する平均コストは約 4.5％です（1 カ月物 EURIBOR 2.50％として算出）。

- **10 億ユーロ規模の 2023 年度末までの非戦略資産売却計画は、これまでに発表した予定されている取引によって達成**

昨日公表したマザーソン（Motherson）グループによるフォルシアのコックピットモジュール事業の子会社、SAS の買収確約を含めた、これまでに発表した予定されている取引をもって、フォルヴィアの 10 億ユーロ規模の 2023 年度末までの非戦略資産売却計画を達成しています。この計画はヘラー買収後のレバレッジ解消を加速させることを目的としたものです。

2022 年 7 月：

- ヘラーは HBPO の 33.33％の株式を共同株主のプラスティックオムニウム（Plastic Omnium）に約 2 億 9,000 万ユーロで売却することを発表しました。売却取引は想定通り 2022 年 12 月に完了しました。

2022 年 12 月：

- フォルシアはインドの内装事業を TAFE（Tractors and Farm Equipment Ltd）に売却することを発表しました。

- フォルシア、ミシュラン、ステランティス（Stellantis）は、ステランティスが、ゼロエミッション水素モビリティのリーディング・カンパニー、シンビオ（Symbio）の株式を取得するための独占交渉を開始したことを発表しました。フォルシアとミシュランは 50：50 でシンビオに出資しています。買収は 2023 年上半期に完了する見込みであり、規制当局の承認など通常の取引完了条件に従って行われます。

2023 年 2 月：

- フォルシアとカミンズ（Cummins）は、フォルシアの欧州と米国の商用車両向け排出ガス後処理事業を 1 億 5,000 万ユーロで売却する件について独占交渉に入ったことを発表しました。
- フォルシアは昨日、マザーソングループが、インテリアセグメントの一部であるコックピットモジュール事業の子会社、SAS（アセンブリおよびロジスティクスサービス）の買収に合意したことを発表しました。企業評価は 5 億 4,000 万ユーロです。

- **ロシアからの撤退**

フォルシアはロシアからの撤退を決定し、2022 年末に関連資産の償却を完了しました。

2022 年下半期･2022 年度のグループ全体の売上高と利益率

インフレのパススルーによる押し上げ効果もあり、下半期も売上高の大幅なアウトパフォーマンスが継続

下半期は営業利益率が 5.0％に改善、前年比 50bps 増、前期比 130bps 増

グループ（単位：百万ユーロ）	2021 年度下半期（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー6 カ月分）	2022 年度下半期フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*37,786*				*43,395*	*14.8%*
売上高	**7,835**	319	1,957	3,724	**13,835**	**76.6%**
前年比		*4.1%*	***25.0%***	*47.5%*		
アウトパフォーマンス（bps）			***1,020***			
営業利益	**352**				**689**	**95.7%**
売上高に占める割合	*4.5%*				*5.0%*	+50bps

2022 年度下半期：

- **売上高は 138 億 3,500 万ユーロで、報告ベースで 76.6％増加、オーガニックベースで 25.0％増加**
  - 為替変動のプラス影響は 4.1％と前期とほぼ同水準でした（主に米ドルと中国元によるもの）。
  - ヘラー分が下半期を通して連結されたことで、連結範囲の変更によるプラス影響は 47.5％（37 億 2,400 万ユーロ）でした。
  - 同期間の世界の自動車生産台数の伸びが 14.8％だったのに対し、オーガニックグロースは 25.0％であり、**1,020bps のアウトパフォーマンス**となりました。多地域にまたがっていることによる約 50bps のごくわずかなマイナス影響があったものの、顧客へのインフレのパススルーに関連する約 620bps のプラス影響がアウトパフォーマンスに寄与しました。
- **営業利益率は売上高の 5.0％、前年比 50bps 増、前期比 130bps 増**
  - 前期比 130bps の増加は、サプライチェーンの混乱が解消に向かったことに加え、今期は中国でコロナ関連の行動制限が実施されず、ミシガン州のシーティングプログラムの追加経費が削減され、顧客へのインフレのパススルーの効率性が改善されたことが反映されたものです。
  - 利益率ゼロでの売上にあたる顧客へのインフレのパススルーにより、下半期は営業利益率が累積で約 140bps 目減りしました。

インフレのパススルーによる押し上げ効果もあり、2022 年度は売上高が大幅にアウトパフォーマンス

2022 年度は営業利益率が 4.4%に回復、インフレのパススルー（利益率ゼロでの売上）による 120bps の目減り分を除くと 5.6%

グループ（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高	**15,618**	674	2,654	6,512	**25,458**	**63.0%**
前年比		*4.3%*	***17.0%***	*41.7%*		
アウトパフォーマンス（bps）			***1,030***			
営業利益	**862**				**1,115**	**29.4%**
売上高に占める割合	*5.5%*				*4.4%*	-110bps

2022 年度：

- **売上高は 254 億 5,800 万ユーロで、報告ベースで 63.0%増加、オーガニックベースで 17.0%増加**
  - 為替変動のプラス影響は 4.3%。主に米ドルと中国元の対ユーロ相場によるものです。
  - ヘラーの 11 カ月分（2022 年 2 月 1 日以降）の業績が連結されたことで、連結範囲の変更によるプラス影響は 41.7%（65 億 1,200 万ユーロ）でした。
  - 同期間の世界の自動車生産台数の伸びが 6.7%だったのに対し、オーガニックグロースは 17.0%であり、**1,030bps のアウトパフォーマンス**となりました。多地域にまたがっていることによる約 200bps のマイナス影響があったものの、顧客へのインフレのパススルーに関連する約 540bps のプラス影響がアウトパフォーマンスに寄与しました。
- **営業利益率は売上高の 4.4%、前年比 110bps 減**
  - 通年の営業利益率における前年比 110bps 減は、ウクライナ戦争の勃発やそれに伴うさまざまな影響（サプライチェーンの混乱、原材料やエネルギー価格の高騰など）、中国でのコロナ関連の行動制限に加え、慢性的な半導体不足、ミシガン州のシーティングプログラムの追加経費が引き続き高額だったことが大きく響き、上半期の営業利益率が低水準（前年同期の 6.6%に対し 3.7%）となったことが反映されたものです。
  - 利益率ゼロでの売上にあたる顧客へのインフレのパススルーにより、通年では営業利益率が累積で約 120bps 目減りしました。

2022 年度は、インフレの影響によりフォルヴィア（フォルシア＋ヘラー）の事業コストが前年比で 10 億ユーロ以上増加した一方で、所定の契約の仕組みや顧客への特定の交渉および請求（85%を上回る分をパススルー）によって売上高は 10 億ユーロ近く押し上げられました。

2022 年度の各ビジネスグループの売上高と利益率

シーティング（グループの連結売上高の 30%）

シーティング（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高	**6,049**	331	1,324		**7,704**	**27.4%**
前年比		*5.5%*	***21.9%***			
アウトパフォーマンス（bps）			***1,520***			
営業利益	**285**				**197**	**-30.8%**
売上高に占める割合	*4.7%*				*2.6%*	-210bps

売上高

下半期のオーガニックグロースは 29.9%と好調で、通年では 21.9%増となりました。すべての地域が通年のオーガニックグロースに貢献し、中でも中国と北米は堅調な 2 桁増、欧州は 1 桁台後半の増加となっています。北米の売上高のけん引役はステランティス（Stellantis）（ミシガン州でのプログラムは 2021 年度下半期に入って開始されたため）であり、中国では中国の OEM（主に BYD）および中国に拠点を置く米国電気自動車メーカーの極めて好調な伸びが売上高をけん引しました。

営業利益

下半期の営業利益は売上高の 3.2%と上半期の同 1.8%から回復しましたが、通年の営業利益率は売上高の 2.6%であり、前年比で 210bps 減となっています。この下半期の改善は、ミシガン州のプラントの継続的な経費削減が影響したものです（2021 年下半期は 1 億ユーロ、2022 年上半期は 4,500 万ユーロ、2022 年度下半期は 3,500 万ユーロ）。こうした追加経費を除くと、2022 年下半期の営業利益率は売上高の 4.0%、2022 年通年で同 3.6%となります。

インテリア（グループの連結売上高の 22%）

インテリア（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高	**4,641**	110	779		**5,529**	**19.2%**
前年比		*2.4%*	***16.8%***			
アウトパフォーマンス（bps）			***1,010***			
営業利益	**190**				**246**	**29.4%**
売上高に占める割合	*4.1%*				*4.4%*	+30bps

売上高

下半期のオーガニックグロースは 29.1%と好調で、通年では 16.8%増となりました。共に 2 桁の伸びをみせた欧州と北米が主にオーガニックグロースに貢献しました。北米には GM、フォード、米国電気自動車メーカー、新規参入の成長、欧州にはフォードおよび BMW の力強い成長が反映されています。

営業利益

下半期の営業利益は売上高の 5.2%であり、上半期の同 3.6%から改善しました。通年では売上高の 4.4%であり、前年比 30bps 増となっています。この前年比増は、主に販売量の増加および北米での価格改定のプラス効果によって、より多くの固定費が吸収されたことが影響したものです。

クリーンモビリティ（グループの連結売上高の 19%）

クリーンモビリティ（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高	**4,091**	199	446		**4,736**	**15.8%**
前年比		*4.9%*	***10.9%***			
アウトパフォーマンス（bps）			***420***			
営業利益	**389**				**336**	**-13.5%**
売上高に占める割合	*9.5%*				*7.1%*	-240bps

売上高

下半期のオーガニックグロースは 15.1%、通年では 10.9%増となりました。欧州と北米、さらに割合は低いものの南米が主にオーガニックグロースをけん引しました。この 3 地域は、オーガニックベースで売上高が 2 桁増となっています。欧州ではフォードおよび商用車関連の売上高が、北米では同じくフォードと商用車に加え、GM が主にオーガニックグロースに貢献しました。南米では主に GM への販売増が、持続的なオーガニックグロースをけん引しました。

営業利益

下半期の営業利益は売上高の 7.5%であり、上半期の同 6.6%から改善しました。通年の営業利益は売上高の 7.1%となり、前年比 240bps 減となっています。前年比の減少は主にインフレのパススルーによる約 100bps の目減り、業務関連の追加コストの約 40bps、ゼロエミッション関連の販売の進展による追加コスト 60bps（まだ黒字化していない）に起因するものです。

エレクトロニクス（グループの連結売上高の 14%）

エレクトロニクス（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高	**838**	34	105	2,545	**3,522**	**320.5%**
前年比		*4.1%*	***12.5%***	*303.9%*		
アウトパフォーマンス（bps）			***580***			
営業利益	**-2**				**141**	**n/s**
売上高に占める割合	*-0.2%*				*4.0%*	*n/s*

売上高

エレクトロニクスは、フォルシアのエレクトロニクス事業（2021 年度の 8 億 3,800 万ユーロに対し 2022 年度は 9 億 7,700 万ユーロ）とヘラーのエレクトロニクス事業（2022 年度は連結範囲の変更により 11 カ月分の 25 億 4,500 万ユーロ）を統合したことで、規模が一変しています（2022 年度の売上高は 2021 年度から 4 倍以上増加）。オーガニックグロース（フォルシアのエレクトロニクス事業関連のみ）は 12.5%であり、すべての地域で 2 桁増となりました。

営業利益

営業利益は売上高の 4.0%（1 億 4,100 万ユーロ）でした。これには、フォルシアのエレクトロニクス事業に関連する 1,000 万ユーロの営業損失、およびヘラーを連結貸借対照表に取り込む際の資産再評価に伴う 1,900 万ユーロ分のマイナス影響が含まれています。

このヘラーの科目分を修正再表示すると、営業利益は 1 億 6,000 万ユーロとなり、エレクトロニクスの総売上高の 4.5%に相当します。主な内訳は以下のとおりです。

- ✓ フォルシアのエレクトロニクス事業からの損失が売上高の 1.0%（2022 年下半期には損益分岐点に到達）
- ✓ ヘラーのエレクトロニクス事業からの利益が売上高の 6.7%

ライティング（グループの連結売上高の 12%）

ライティング（単位：百万ユーロ）	2021 年度（フォルシア単独）	為替差損益	オーガニックグロース（フォルシア単独）	連結範囲の変更による影響（ヘラー11 カ月分）	2022 年度フォルヴィア	報告ベースの変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高				3,074	**3,074**	
前年比						
アウトパフォーマンス（bps）						
営業利益					**107**	
売上高に占める割合					*3.5%*	

売上高

本事業は今年度からフォルシアの連結会計に含まれています。11 カ月分の売上高は 30 億 7,400 万ユーロです。

営業利益

通年の営業利益は売上高の 3.5%でした。営業利益 1 億 700 万ユーロには、ヘラーを連結貸借対照表に取り込む際の資産再評価に伴う 4,000 万ユーロのプラス分が含まれています。

このヘラーの科目分を修正再表示すると、営業利益は 6,700 万ユーロとなり、ライティングの売上高の 2.2%に相当します。

ライフサイクルソリューション（グループの連結売上高の 3%）

ライフサイクルソリューション （単位：百万ユーロ）	2021 年度 （フォルシア 単独）	為替差損益	オーガニック グロース （フォルシア 単独）	連結範囲の変更に よる影響 （ヘラー11 カ月 分）	2022 年度 フォルヴィア	報告ベースの 変動割合
世界の自動車生産台数（単位：百万台）	*77,197*				*82,375*	*6.7%*
売上高				893	**893**	
前年比						
アウトパフォーマンス （bps）						
営業利益					**89**	
売上高に占める割合					*9.9%*	

売上高

本事業は今年度からフォルシアの連結会計に含まれています。11 カ月分の売上高は 8 億 9,300 万ユーロです。

営業利益

通年の営業利益は売上高の 9.9%でした。営業利益 8,900 万ユーロには、ヘラーを連結貸借対照表に取り込む際の資産再評価に伴う 200 万ユーロ分のマイナス影響が含まれています。このヘラーの科目分を修正再表示すると、営業利益は 9,100 万ユーロとなり、ライフサイクルソリューションの売上高の 10.2%に相当します。

2022 年度の各地域の売上高と利益率

2022年連結売上高に占める割合	欧州 44%	北米 25%	南米 3%	南北アメリカ 28%	アジア 27%
地域の自動車生産台数前年比*	*-0.5%*	*9.7%*	*8.4%*	*9.4%*	*8.2%*
2021年度売上高（単位：百万ユーロ）	**6,996**	**3,725**	**543**	**4,268**	**4,167**
為替差損益	-2.4%	14.8%	-1.9%	12.7%	7.2%
前年比（オーガニック）	10.1%	20.7%	34.3%	22.4%	21.6%
連結範囲の変更による影響	52.0%	36.6%	4.1%	32.4%	34.3%
2022年度売上高（単位：百万ユーロ）	**11,165**	**6,410**	**741**	**7,151**	**6,795**
前年比（報告）	59.6%	72.1%	36.4%	67.6%	63.1%
2021年度営業利益（単位：百万ユーロ）	**292**	**49**	**44**	**92**	**458**
売上高に占める割合	4.2%	1.3%	7.9%	2.2%	11.0%
2022年度営業利益（単位：百万ユーロ）	**180**	**142**	**51**	**193**	**723**
売上高に占める割合	1.6%	2.2%	6.9%	2.7%	10.6%

* 2021 年と比較した 2022 年の地域の自動車生産台数、出所：2023 年 2 月付の S&P グローバルモビリティ（旧社名 IHS マークイット）のデータ

売上高

全地域で売上高が 2 桁増となり、各地域の自動車生産台数の伸びを上回っています。

営業利益

- **欧州（グループ売上高の 44%）**の営業利益率は、主にウクライナ戦争の影響により 260bps 減となりました。
- **北米（グループ売上高の 25%）**の営業利益率は 90bps 増の 2.2%でした（ミシガン州のプラントの追加経費は、2021 年下半期は 1 億ユーロ、2022 年上半期は 4,500 万ユーロ、2022 年度下半期は 3,500 万ユーロと毎期削減）。
- **アジア（グループ売上高の 27%）**の営業利益率は 10%超でした。

2022 年度連結包括利益計算書

単位：百万ユーロ	2021	2022
売上高	**15,618**	**25,458**
報告ベースの増加		+63.0%
オーガニックグロース		+17.0%
営業利益（取得した無形資産償却費反映前）	**862**	**1,115**
企業結合で取得した無形資産償却費	(93)	(219)
営業利益（取得した無形資産償却費反映後）	**769**	**896**
構造改革費用	(196)	(352)
その他の経常外営業利益・費用	(42)	(97)
純支払利息およびその他の金融収益・費用	(254)	(523)
完全連結会社の税引前利益	**276**	**(75)**
法人所得税	(139)	(186)
完全連結会社の純利益	**137**	**(262)**
関連会社の純利益	(25)	11
継続事業の純利益	**113**	**(250)**
非継続事業の純利益	**(96)**	
少数株主利益調整前連結純利益	**16**	**(250)**
少数株主利益	(95)	(131)
連結純利益（グループ持分）	**(79)**	**(382)**

注意：2021 年の数値はフォルシア単独のものですが、2022 年の数値には 2022 年 2 月 1 日以降のヘラーの連結分（11 カ月）と買収のための資金調達コストも含まれています。

グループの営業利益は、2021 年度の 8 億 6,200 万ユーロ（売上高の 5.5%）に対し、11 億 1,500 万ユーロ（売上高の 4.4%）でした。

- **企業結合で取得した無形資産の償却費：**ヘラー買収に関連する 2022 年 2 月 1 日以降 11 カ月分ののれん償却 1 億 3,100 万ユーロを含み、2 億 1,900 万ユーロの純損失となりました。2021 年度は 9,300 万ユーロの純損失でした。
- **構造改革費用は、**2021 年度の 1 億 9,600 万ユーロに対し 3 億 5,200 万ユーロでした。内訳は構造改革に伴う費用の 2 億 800 万ユーロ（2021 年度は 1 億 3,800 万ユーロ）と資産償

却の 1 億 4,400 万ユーロ（2021 年度は 5,900 万ユーロ）であり、資産償却のうちの 1 億 400 万ユーロはロシア関連のものです。

- **その他の経常外営業利益・費用は**、9,700 万ユーロの支出となりました（2021 年度は 4,200 万ユーロの支出）。これには、ヘラー買収に関連する経常外費用の 4,300 万ユーロとロシアでの事業に関連する経常外費用の 2,700 万ユーロが含まれています。
- **金融収支は、5 億 2,300 万ユーロの純損失となりました**（2021 年度は 2 億 5,400 万ユーロの純損失）。これには財務費用の 3 億 8,500 万ユーロ（2021 年度は 2 億 3,900 万ユーロ）と、その他の財務費用の 1 億 8,900 万ユーロ（2021 年度は 4,700 万ユーロ）が含まれています。その他の財務費用には、ハイパーインフレの損失 4,100 万ユーロ、為替関連の損失 4,300 万ユーロ、ヘラー買収の関連費用の損失 3,400 万ユーロなどが計上されています。

完全連結会社の税引前利益は、7,500 万ユーロの営業損失となりました（2021 年度は 2 億 7,600 万ユーロの営業利益）。これにはロシアからの撤退を決定したことに関連する費用の 1 億 3,000 万ユーロとヘラー買収による統合および財務費用の 1 億 9,500 万ユーロが含まれています。

- **法人所得税は 1 億 8,600 万ユーロの純損失（2021 年度は 1 億 3,900 万ユーロの純損失）**でした。2022 年の利益の大半はアジアで計上されたものであり、多地域にまたがっていることによる不利な影響が大きく反映されました。
- **関連会社の純利益持分は 1,100 万ユーロでした**（2021 年度は 2,500 万ユーロの損失）。
- 2021 年度の非継続事業の純利益は、AST 部門の売却により 9,600 万ユーロの損失でした。
- **少数株主利益は（ヘラーの約 18%の少数株主利益を含む）、1 億 3,100 万ユーロでした**（2021 年度は 9,500 万ユーロ）。

純利益（グループ持分）は、3 億 8,200 万ユーロの損失となりました（2021 年度は 7,900 万ユーロの損失）。主な内容は以下のとおりです。

- ✓ ロシアからの撤退を決定したことに関連する一時的な損失（主に資産の減損）の 1 億 4,300 万ユーロ
- ✓ ヘラーの買収に関連する統合費用の 5,100 万ユーロ
- ✓ 一時的な構造改革費用の 8,600 万ユーロ
- ✓ ハイパーインフレ費用の 4,100 万ユーロ

2022 年度連結キャッシュフロー計算書

単位：百万ユーロ	2021	2022年度 上半期	2022
営業利益	**862**	*426*	**1,115**
減価償却費および償却費	1,247	895	1,897
－研究開発無形資産償却費	*487*	*320*	*687*
－その他の減価償却費および償却費	*760*	*575*	*1,210*
調整後EBITDA	**2,109**	1,321	**3,012**
売上高に占める割合	***13.5%***	*11.4%*	***11.8%***
設備投資	-530	-523	-1,177
研究開発費	-670	-470	-966
運転資本要件の変動	-19	*22*	374
ファクタリングの変動	72	*234*	183
構造改革費用	-175	-93	-184
金融費用	-230	-182	-373
税金	-243	-220	-384
その他（営業関連）	-10	*13*	-14
ネットキャッシュフロー	**305**	*102*	**471**
配当金の支払額（少数株主を含む）	-201	-5	-55
株式の取得	-26		
金融投資およびその他（純額）	-126	-4,863	-4,539
非継続事業	-49		
IFRS第16号の影響	-241	-162	-349
純負債の変動	**-339**	-4,928	**-4,472**
当期首における純負債	-3,128	-3,467	-3,467
当期末における純負債	-3,467	-8,394	-7,939
調整後EBITDAに対する純負債の比率	**1.6倍**	3.1倍	**2.6倍**

注意：2021 年の数値はフォルシア単独のものですが、2022 年の数値には 2022 年 2 月 1 日以降のヘラーの連結分（11 カ月）と買収のための資金調達コストも含まれています。

調整後 EBITDA に対する純負債の比率とは、2022 年 12 月 31 日時点における、過去 12 カ月の調整後 EBITDA に対する各期末時点の純金融債務の割合を示すものです。ヘラーは 2022 年 2 月 1 日から連結されたため（11 カ月）、ヘラーの寄与分としてもう 1 カ月分を加味して比率を算出しています。

調整後 EBIDTA は 30 億 1,200 万ユーロで売上高の 11.8%でした（2021 年度は 21 億 900 万ユーロで売上高の 13.5%）。

- **設備投資は 11 億 7,700 万ユーロ**（2021 年度は 5 億 3,000 万ユーロ）であり、そのうち 6 億 800 万ユーロがフォルシア（売上高の 3.2%、2021 年度から 20bps 減）、5 億 6,900 万ユーロがヘラー（売上高の 8.7%）です。ヘラーの資本集約度はフォルシアより高くなっています。
- **研究開発費は 9 億 6,600 万ユーロで売上高の 3.8%でした**（2021 年度は 6 億 7,000 万ユーロで売上高の 2.4%）。
- **運転資本要件の変動は、3 億 7,400 万ユーロ増加しました**（2021 年度は 1,900 万ユーロ減）。最近開催されたキャピタルマーケットデーで提示した「Manage by Cash」プログラムによる初めてのプラス効果が反映されたものです。このプラス効果は主に債券回収効率の改善や在庫日数の 0.6 日削減などによるもので 8,500 万ユーロでした。
- **ファクタリングの変動は、1 億 8,300 万ユーロ増加しました**（2021 年度は 7,200 万ユーロ増加）。主にフォルシアの既存プログラムの範囲を拡大しヘラーを含めたことが反映されています。ファクタリングは 2021 年度末の 11 億ユーロに対し 2022 年度末時点で 13 億ユーロでした。
- **構造改革の支出は、1 億 8,400 万ユーロ**（2021 年度は 1 億 7,500 万ユーロ）、主にヘラー買収に関連する純負債が増加したことで**金融費用の支出は 3 億 7,300 万ユーロ**（2021 年度は 2 億 3,000 万ユーロ）、**税金の支出は 3 億 8,400 万ユーロ**（2021 年度は 2 億 4,300 万ユーロ）でした。

ネットキャッシュフローは、4 億 7,100 万ユーロで売上高の 1.9%でした（2021 年度は 3 億 500 万ユーロで売上高の 2.0%）。

- 金融投資およびその他の純額は、主にヘラーへの投資を反映し 46 億ユーロの支出となりました。支出幅は (i) 6 月に発行した新株予約権による 7 億ユーロの増資、および(ii) ヘラーが保有していた HBPO の 33%株式の売却益の 3 億ユーロ、によって縮小されています。

2022 年度末時点の純金融債務は 79 億ユーロであり（3 億 4,900 万ユーロの IFRS 第 16 号の影響を含む）、調整後 EBITDA に対する純負債の比率は半年前の 3.1 倍から 2.6 倍と大幅に低下しました。

11 月 3 日のキャピタルマーケットデーで発表したように、11 月 2 日に開催された取締役会において、フォルシアの次回株主総会で 2023 年度配当金について無配を提案する旨を決議しました。

利用できる手元資金は 2022 年度末時点で 42 億ユーロ

2022 年 12 月 31 日時点のグループの流動性は 62 億ユーロであり、内訳は利用できる手元資金が 42 億ユーロ、フォルシアの未実行のシニアクレジットファシリティ（与信期間は 2026 年 5 月まで、2028 年までの延長オプション付き）が 15 億ユーロ、およびヘラーのシニアクレジットファシリティが 5 億ユーロです。

2023 年度ガイダンス

ガイダンスの前提条件

- ✓ 2023 年の世界の自動車生産台数は 2022 年実績からほぼ横ばいの 8,200 万台、S&P の直近の予想である 8,500 万台に比べて控えめな数字
- ✓ 主な為替レートは 1.10 米ドル／ユーロ、7.50 中国元／ユーロ

フォルヴィアの 2023 年度通年ガイダンス

- **これまでに発表された売却**（IFRS 第 5 号に従った 2023 年 1 月 1 日以降の SAS の連結対象からの除外や、2023 年 7 月 1 日のカミンズへの事業売却予定など）**による推定 13 億ユーロ分のマイナス影響を含み、売上高は 252 億～262 億ユーロ**
- **営業利益率は売上高の 5～6%**
- **ネットキャッシュフローは売上高の 1.5%超**
- **10 億ユーロ規模の 2023 年度末までの売却計画の影響を踏まえて、2023 年 12 月 31 日時点の調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 2.0～2.4 倍**

本ガイダンスは、今年度中に小売販売に影響するような大規模なロックダウンがどの自動車市場にも発生しないと仮定しています。

2025 年度の目標を確認（2023 年度末までの 10 億ユーロの非戦略資産売却計画によって想定される影響も考慮）

フォルヴィアの 2025 年通年の目標は、2022 年 11 月 3 日に開催されたキャピタルマーケットデーで提示された目標に沿って、十分に確認されました（前提条件は、2025 年の世界の自動車生産台数が 8,800 万台（S&P の直近の予想である 9,000 万台に比べて控えめな数字）、為替レートは 1.05 米ドル／ユーロ、7.00 中国元／ユーロ）。

- **売上高は約 300 億ユーロ**
- **営業利益率は売上高の 7%超**
- **ネットキャッシュフローは売上高の 4%超**
- **2025 年 12 月 31 日時点で調整後 EBITDA に対する純負債の比率は 1.5 倍未満**

財務カレンダー

- **2023 年 4 月 17 日：**2023 年度第 1 四半期売上高（市場取引開始時間前）
- **2023 年 5 月 30 日：**定時株主総会（ナンテール）
- **2023 年 7 月 27 日：**2023 年度上半期業績（市場取引開始時間前）
- **2023 年 10 月 20 日：**2023 年度第 3 四半期売上高（市場取引開始時間前）

- フォルシアが主要業績評価指標として使用している「営業利益」は、企業結合で取得した無形資産償却前営業利益です。

- 「調整後 EBITDA」は、上記で定義している営業利益と、資産の減価償却費および償却費を合算したものです。フォルヴィアグループでは、ESMA（欧州証券市場監督局）の規制を順守し、2022 年 1 月 1 日からそれまでの「EBITDA」に替わり「調整後 EBITDA」を用いています。従って、2021 年度までの「EBITDA」数値は、2022 年度以降の「調整後 EBITDA」数値に相当します。

- 「債務制限条項」は、「過去 12 カ月の調整後 EBITDA」に対する「期末時点の純金融債務」の比率について定めたものであり、6 月 30 日と 12 月 31 日の年 2 回検証を行っています（2022 年 4 月の銀行との交渉での合意に従い、2022 年 6 月 30 日には検証を実施していません）。

- 上述のように、2022 年 12 月 31 日時点の調整後 EBITDA に対する純負債の比率の算出にあたっては過去 12 カ月の調整後 EBITDA を用いています。ヘラーは 2022 年 2 月 1 日から連結されたため（11 カ月）、ヘラーの寄与分としてもう 1 カ月分を加味して比率を算出しています。

- 他の用語の定義については、本プレスリリース末尾の「本文書中で使用されている用語の定義」で説明しています。

- 世界または各地域の自動車生産に関する数値はすべて、2023 年 2 月付の S&P グローバルモビリティ（旧社名 IHS マークイット）の予測を参照しています。

■フォルシア・ジャパンメディア問い合わせ先

篠塚 郁恵
Tel: 080 6676 7459
ikue.shinozuka@forvia.com

坂井 木綿子
Tel: 080 1003 3839
yuko.sakai@forvia.com

フォルヴィアについて

ミッション：「人々にとって大切なモビリティエクスペリエンスを実現する技術を先駆的に開発する」

フォルヴィアは、フォルシアとヘラーの技術および生産上の強みを補完し合うことで構成されています。世界 40 カ国以上に 290 以上の工場と 76 の R&D センターを持ち、15,000 人以上のエンジニアを含む 15 万 7 千人の従業員を擁するフォルヴィアは、現在および将来の自動車産業の課題に対して独自の包括的なアプローチを提供しています。6 つのビジネスグループと 14,000 件以上の特許を有する強力な IP ポートフォリオで構成され、世界のカーメーカー各社からイノベーションおよび統合のパートナーとして選ばれることに注力しています。フォルヴィアは、モビリティの変革を予見し、実現することを約束するチェンジメーカーとなることをめざしています。
www.forvia.com

フォルシアについて

フォルヴィアグループ傘下のフォルシアは、自動車技術におけるグローバルリーダーです。
2022 年のグループの連結売上高は 255 億ユーロでした。
フォルシアはユーロネクスト・パリ証券取引所に上場し、CAC NEXT 20、CAC 40 ESG、CAC SBT 1.5 構成銘柄に名を連ねています。
www.faurecia.com

ヘラーについて

フォルヴィアのグループ会社であるヘラーは、国際的な自動車部品サプライヤーです。
2021～2022 年度（2021 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日）の連結売上高は 63 億ユーロでした。
ヘラーはフランクフルト証券取引所に上場し、SDAX 構成銘柄に名を連ねています。
www.hella.com

免責条項

本文書には、フォルシアの将来の見通しに関する一定の記述が含まれています。このような将来の見通しに関する記述は、傾向や目標を示すものであり、将来のフォルシアの業績やその他の業績指標に関する予測として解釈されるものではありません。「推定する」、「見込む」、「期待する」、「見積もる」、「計画する」、「意図する」、「目的」、「信ずる」、「予測する」、「予見する」、「恐らく」、「かもしれない」、「だろう」、「目標」、「目標値」、「ひょっとして」、「するだろう」、「するつもりである」、「はずである」、「予想する」、「続ける」、「確信する」、「自信」などの将来の見通しに関する単語、こうした単語の否定形や複数形、そして他の同等の用語で、こうした将来の見通しに関する記述を特定できる場合もあります。本文書におけるこうした記述には、財務予測、推定、およびその基礎となる仮定が含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、こうした仮定には、現在および将来の事業戦略（フォルシアグループへのヘラーの順調な統合を含む）に関する仮定、フォルシアの事業運営に関する予想および記述、そしてフォルシアの事業の将来の運営、方向性および成功に関するものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。フォルシアは、その予想が合理的な仮定に基づいているものと考えますが、こうした将来の見通しに関する記述は、既知または未知のさまざまなリスクおよび不確実性などその他の要因に左右されます。そして、こうしたことのすべては、フォルシアが制御できる範囲を超える可能性があり、その結果、実績がこうした将来の見通しに関する記述で期待されたものと著しく異なる場合があり得ることに、投資家は注意を払う必要があります。こうしたリスクおよび不確実性、ならびにその他の要因についての詳細は、フランス金融市場庁（AMF）に提出した公的書類、プレスリリース、プレゼンテーション、特に 2022 年 4 月 6 日にフォルシアが AMF に提出した、フォルシアの 2021 年ユニバーサル登録文書第 2 節「リスク要因とリスクマネジメント」（No. D. 22-0246、www.faurecia.com で入手可能）をご参照ください。フォルシアは、新しい情報、将来の出来事その他の結果にかかわらず、こうした将来の見通しに関する記述を法的な要求事項として公に更新し、修正する責任を負いません。ここに含まれる過去の業績に関連するいかなる情報も、将来の業績を保証するものではありません。本文書の内容は、投資の推奨としても、法律・税務・投資・会計上の助言としても解釈されるべきものではありません。本文書に含まれるヘラー関連の過去の数値は、買収過程で同社からフォルシアに提供されたものです。フォルシアの監査役はこうした過去の数値の監査は行っておらず、またこうした数値はフォルシアの監査役による限定的な評価の対象ではありません。ヘラーは引き続き上場企業です。ヘラーについての詳細は、www.hella.com をご参照ください。本文書は、フォルシアの有価証券の売却または購入申込みの勧誘として見なされるものではなく、またそのように解釈されるべきものでもありません。

付録

本文書中で使用されている用語の定義

1. 売上高の変動

フォルシアでは、前年比の売上高の変化は、次の 3 つの要素で構成されます。

- 前年度の売上高にその期間の平均為替レートを適用して算出された「為替差損益」
- 「連結範囲の変更による影響」（買収・売却）
- 「為替変動の影響を除いた成長」

フォルシアは、年間ベースの売上高が 2 億 5,000 万ユーロを上回る企業の買収および売却をすべて「連結範囲の変更による影響」として開示しています。

この基準値を下回る買収については「ボルトオン買収」と見なされ、「為替変動の影響を除いた成長」に含まれます。

2021 年には「ボルトオン買収」による影響はありませんでした。その結果、「為替変動の影響を除いた成長」は、一定の連結範囲と為替レートにおける売上高の変動（オーガニック変動とも表示される）に相当します。

2. 営業利益

営業利益は、フォルシアグループの主要業績評価指標です。これは、以下を反映する前の、完全連結会社の純利益に相当します。

- 企業結合で取得した無形資産の償却費
- 重要で特別かつ経常外の項目に対応する、その他の経常外営業利益および費用。これには、組織再編費用や早期退職費用のほか、事業の中止、工業用地の閉鎖または売却、営業外建物の処分等の例外的な事象の影響、有形固定資産または無形資産について計上された減損損失、およびその他の重要かつ特別な損失が含まれます。
- ローン、現金投資、および市場性のある有価証券からの収入、および金融費用
- その他の金融収益および費用。これには、年金給付債務の割引による影響や関連制度資産からのリターン、金利・為替ヘッジの無効部分、IFRS 第 9 号に基づいて明示できない関係性のなかで定められた基準をヘッジ関係が満たさない金利や為替商品の価値変動、および子会社株式の売却による損益が含まれます。
- 税金

3. 調整後 EBITDA

調整後 EBITDA は、上記で定義している営業利益と、資産の減価償却費および償却費を合算したものです。フォルヴィアグループでは、ESMA（欧州証券市場監督局）の規制を順守し、2022 年 1 月 1 日からそれまでの「EBITDA」に替わり「調整後 EBITDA」を用いています。従って、2021 年度までの「EBITDA」数値は、2022 年度以降の「調整後 EBITDA」数値に相当します。

4. ネットキャッシュフロー

ネットキャッシュフローは次のように定義されます。営業活動および投資活動によるキャッシュフローから、資本持分および事業の買収・処分（現金および現金同等物を控除）、金融資産の処分によるその他の変動と収入を差し引いたもの。IFRS 第 16 号の債務の返済は含まれません。

5. 純金融債務

純金融債務は次のように定義されます。総金融債務から現金および現金同等物、非流動資産および流動資産に分類されるデリバティブを差し引いたもの。これにはリース負債（IFRS 第 16 号の債務）が含まれます。